

文教委員会資料

2 所管事務の調査（報告）

(1) 子ども・若者応援基金を活用したグローバル人材育成事業について

資料 子ども・若者応援基金を活用したグローバル人材育成事業について

こども未来局

（令和元年7月25日）

1 子ども・若者を取り巻く現状

■社会経済状況

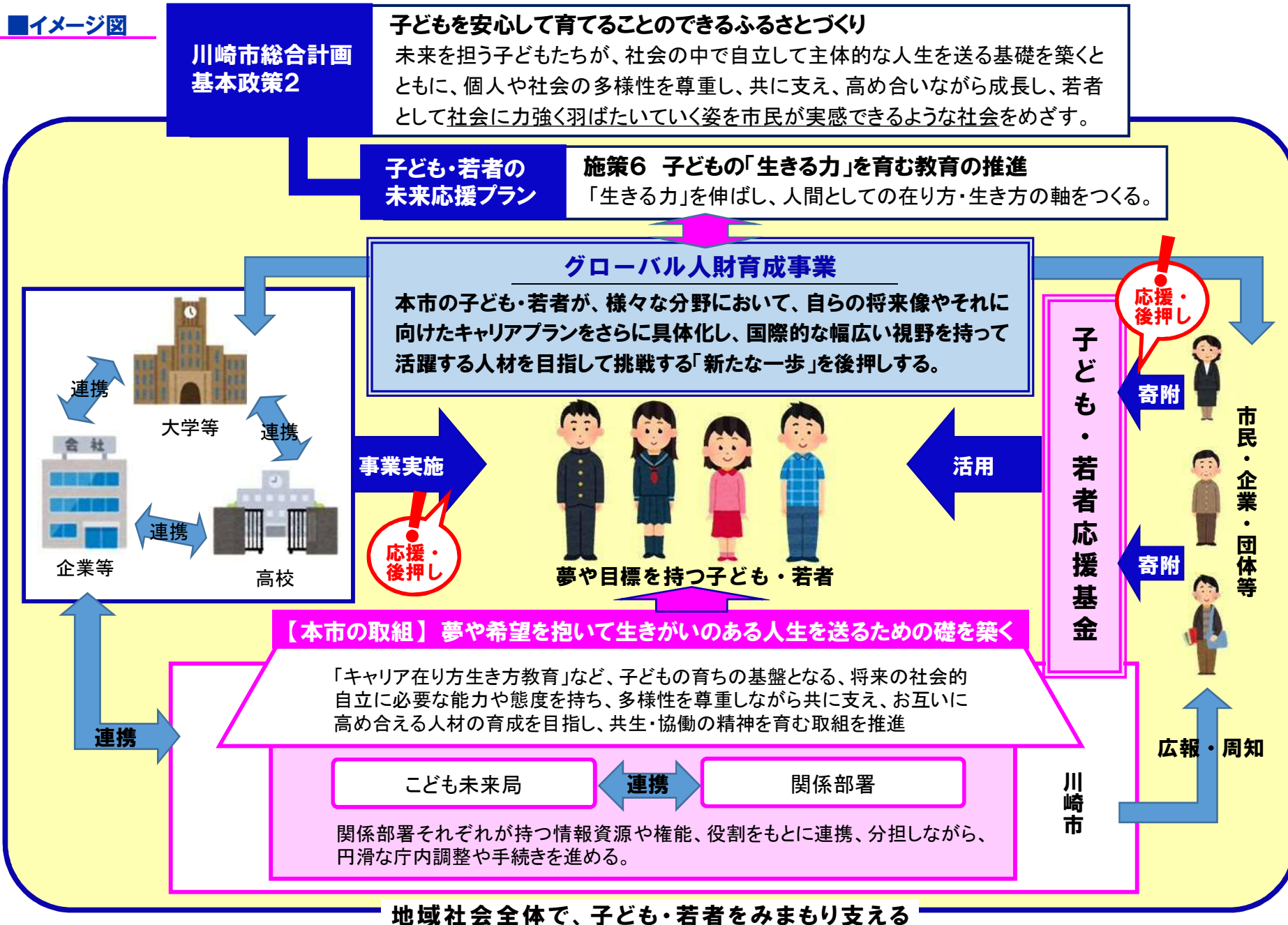
- 近年、あらゆる場所でグローバル化が進む中、日本が抱える社会課題等を自ら発見し、解決できる能力のほか、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛するとともに、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解の精神等を身に付けて様々な分野でグローバルに活躍できる人材が求められている。
- 国では、精神的・経済的に自立した個人として社会に問題意識を持ち、自ら積極的に問題解決や価値の創造をする人材を育てる「アントレプレナーシップ（企業家精神又は起業家精神）教育」の取組を推進している。
（「イノベーション創出に向けた人材、知、資金の好循環システムの構築」—第5期科学技術基本計画—）

■本市におけるこれまでの取組

- 子どもの育ちの基盤となる、将来の社会的自立に必要な能力や態度を持ち、多様性を尊重しながら共に支え、お互いに高め合える人材の育成を目指し、共生・協働の精神を育む取組を進めてきている。

2 グローバル人財育成事業について

■イメージ図



3 子ども・若者応援基金について

■概要

- 「頑張る子ども・若者を応援する互助のまちづくりの推進」のために、「機会格差をなくす取組」と「子ども・若者の挑戦の後押し」を目的として、平成30(2018)年4月に新たに創設
- 競馬競輪事業益金を活用するとともに、ふるさと納税の1つのメニューとして、趣旨に賛同していただける市民・企業の皆様からの寄附金についても、平成30(2018)年4月から募集を行っている。

■これまでの取組

「機会格差をなくす取組」として、以下の2事業を実施している。

1 社会的養護奨学給付金

里親家庭や児童養護施設等の退所者等を対象に、大学等進学時の奨学金や資格取得に要する経費に対し、給付金を支給する。

大学等進学奨学金	大学等の学資に充てるための給付金 (国公立大学等；月額3万円、私立大学等；月額5万円)
資格取得給付金	一般教育訓練講座の受講経費に対する給付金 (対象講座の終了に必要な入学金、受講料、教材費)

2 学習支援費

里親家庭や児童養護施設等の児童に対して、児童の個性に応じた学習支援を行う施設等に、費用(学習支援費加算)を支払う。

地域人材・NPO法人等を活用	左記団体実施の学習支援を利用する場合や施設等に招いて学習支援を行う場合の経費
教材等を活用	里親や施設で、市販の教材等を活用して学習支援を行う場合の経費
塾及び家庭教師	塾や家庭教師を利用する場合の経費

■今年度の取組

- 「機会格差をなくす取組」については、引き続き取り組んでいく。
- 今年度は、子ども・若者が新たな一歩を踏み出すきっかけの一つとなり、「子ども・若者の挑戦の後押し」となる取組として、自らの将来像として、国際的な幅広い視野を持って活躍する人材を目指して挑戦する「グローバル人財育成事業」を実施する(左図参照)。
- 今後、大学や企業などから幅広く提案を募集していくが、より具体的なイメージを持って提案できるよう、モデル的に先行事業を2つ実施する。
⇒スタンフォード大学×川崎 (Stanford e-Kawasaki)
⇒慶應義塾大学×川崎 (ハイパーループ・コンペに挑戦！)

4 今後のスケジュール(予定)

- 庁内の各局事業に加え、大学や企業、関係団体などから、グローバル人財育成の趣旨に合致する提案を広く募っていく。
- 募集開始時期や要件、提出書類等については、決定次第、情報提供予定

子ども・若者応援基金を活用したグローバル人材育成事業について

5 先行事業の実施について

■ スタンフォード大学×川崎 (Stanford e-Kawasaki)

1 概要

スタンフォード大学の国際異文化教育プログラム (SPICE) が提供する「Stanford e-Japan」では、インターネットを介し、スタンフォード大学の講義を受講するほか、少人数によるグループディスカッションや日米の高校生による交流プログラムを実施しており、これを本市の高校生向けにカスタマイズしたカリキュラム「Stanford e-Kawasaki」を開講する。

2 実施理由

- 米国カリフォルニア州に立地するスタンフォード大学は、シリコンバレーの形成に大きな役割を果たしてきた。そういった立地や歴史的背景から、産学連携プログラムなどにより、起業を支える環境・コミュニティ形成や、イノベーションを支える連携拠点形成などの重要な役割を果たすとともに、アントレプレナーシップの姿勢を大切にしている。
- リスクに対しても積極的に挑戦していく姿勢や、課題解決に向けた新たな発想や能力、研究を社会実装するためのベンチャー、スタートアップ企業の創業といった「起業」の精神、成功した背景など、ヒューレットパッカーやグーグルなどを含め、様々な実例が積み重ねられている。
- 人種・民族的に多様な文化を尊重する「多文化主義」のカリキュラムを組んでおり、本市においても外国籍住民が増加し、外国籍住民と共に学び、共に働き、共に暮らすという世界観の中で、スタンフォード大学やシリコンバレーを取り巻く多様性や根付いた精神から学ぶべきことは多い。

本市の子ども・若者が、スタンフォード大学とシリコンバレーの形成過程や、起業を支える多様なサービス資源が集積したコミュニティの状況、幅広い人種や民族的な文化の多様性を教材として、遠隔講座の受講や他の参加者との交流などのプログラムを経験することを通じ、国際的な幅広い視野を持って積極的に挑戦し続ける「グローバル人材」を育成するもの。

3 対象者

- 人数 市立川崎・橘高校に在籍する生徒、各校10人程度
- 語学力 中学校卒業程度の英語を理解し、会話で表現できること。

4 全体スケジュール

- 生徒の希望・適性を考慮し、校内で受講者を決定

時期	テーマ・主な内容 (※詳細は調整中)
10月中下旬	開講式 ■簡素な式典、オリエンテーションのあと、座談会形式で自己紹介等
11~12月	テーマ① 多様性とアイデンティティ ■知る…多様性とは何か、歴史、日米の違い、課題など ■考える…課題解決に向けて
1~2月	テーマ② 起業・創業 ■知る…起業・創業とは何か、歴史、日米の違い、課題など ■考える…課題解決に向けて
3月上旬	閉講式 ■事前に設定したテーマによる論文(レポート)、またはプレゼンテーション資料の作成と発表 ■優秀と認められた受講者に対する賞の授与



グループディスカッション



鳥取県での開講式の様子

■ 慶應義塾大学×川崎 (ハイパーループ・コンペに挑戦！)

1 概要

「慶應義塾と川崎市との連携・協力に関する基本協定」(平成21年11月14日締結)に基づき、市立川崎総合科学高校と慶應義塾大学が連携し、同大学新川崎タウンキャンパス内で「ハイパーループ・コンペ(※)」に参加する浮上ポッド(車両)の製作活動を行う。

※チューブ内にポッド(車両)を浮上させ、移動させる技術(速さ)を競う世界大会で、各国から学生を主体とした多くのチームが参加。慶應義塾大学では、大学院システムデザイン・マネジメント研究科(SDM)のチームが平成28年当初から参加している。今回の製作活動ではSDM研究所の狼嘉彰顧問が指導を担当し、これまで慶應義塾大学で製作した全長約1.7メートルのポッド(車両)を改良し、より性能を高めるための試作等を行う。

2 実施理由

- 慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科(SDM)は、マクロな視点から問題を俯瞰するとともに、解決策をミクロに精緻化することで、全体統合型の課題解決を提案(デザイン)することを理念に掲げている。
- 新卒者から多彩な分野の社会人、ヨーロッパやアジアなどから留学生等が集まり、日々研鑽を積みながら研究を行っている。

本市の子ども・若者が、自らの描く将来像やキャリアプランの具体化に向け、新たな一歩を踏み出すきっかけとして、課題解決に向けた検討・研究活動や製作活動を行う学術研究機関でのプログラムに体験・参加することを通じ、グローバル化が著しく進む社会で活躍するための夢や資質を育み、国際的な幅広い視野を持って積極的に挑戦し続ける「グローバル人材」を育成するもの。

3 対象者

- 市立総合科学高校1~3学年電子機械科に在籍する生徒、5~10人程度

4 全体スケジュール

- 生徒の希望・得意分野等の適性を考慮し、校内で受講者を決定

時期	テーマ・主な内容 (※詳細は調整中)
9月	開講式(新川崎タウンキャンパス)、ハイパーループ研究の概要説明 ハイパーループの仕組みと現在までの取組 今後の研究課題について ■プログラムの進め方とスケジューリング、コミュニケーションのやり方 など
10月	製作計画の共有 ■論理的考察と設計・製作
11月~12月上旬	CADによる部品製作 ■磁気ホイールの特性試験、電気・通信系の機能試験、速度制御など
12月中下旬	レーザー加工機による部品製作 ■機体の試作と強度など
1月~3月	組立制作 ■電気系、機械系、制御系の統合試験、全系の安全性確認試験、ブラッシュアップなど
3月	浮上ポッド完成、走行試験とデモンストレーション、閉講



コンペで使用するチューブ(長さ:1,600メートル)



チューブ内の磁気浮上ポッド